

甲賀市レッドリスト 2022 植物（維管束植物） 概要

◇ 甲賀市の植物の概要（植物相および地理分布の特徴、解明度）

- ・ 甲賀市の植物については、滋賀県植物誌（北村，1968）、近畿植物誌（村田，2004）、滋賀県レッドデータブック（滋賀県生きもの総合調査委員会，2011；2016；2021）の記載、各種開発に関連した環境影響評価の調査結果などで公表されているが、市域全体の植物相については未整理の状態にある。甲賀市レッドリストの改訂を継続することにより、希少植物の現況について把握しつつ、今後「甲賀市の生物誌（甲賀市史の生物編）」のような形式で、市域の植物相について整理することを目指したい。
- ・ 甲賀市の自然環境を特徴づける種、甲賀地域に特徴的に分布する種として、鈴鹿山脈には、アカヤシオ、コアブラツツジなどの多種のツツジ科植物とスズカカンアオイ、ウスギナツノタムラソウ、コモノギク、ワタムキアザミ、信楽山地には、コウヤミズキ、キンコウカなどが生育している。さらに信楽山地のコウヤマキ、ツガの群落、野洲川の石礫が多い河原にあるカワラハハコの群生など特徴的な植生がある。
- ・ 古琵琶湖層の丘陵地や田畑に続く草地には、タヌキマメ、オオヒキヨモギ、スズサイコ、コシオガマ、キキョウ、オミナエシなど、近年に全国の里地で減少した草地の植物が確認されているが、管理放棄される草地が増加の一方となり、積極的な保全対策をとるべき段階になった。
- ・ 古琵琶湖層の丘陵地域から信楽山地にかけての山麓や谷沿いに点在する湧水湿地には、最終氷期の遺存種サギスゲ、ヤチスギランをはじめとする多くの湿地性植物が確認されている。これら植物も湿地周辺の樹林の成長による被陰の増加など植生遷移によって、衰退が顕著になってきた。

◇ 甲賀市レッドリスト 2022 植物 掲載方針

- ・ 甲賀市レッドリストでは、本レッドリストの関係者が市内で実際に確認したか、確実な情報が得られた植物を評価対象とした。情報の根拠が十分に確認できず、評価に耐えないとみなした場合は対象外とした。しかしながら、直接に根拠を検討できない場合でも、何らかの公表記録や有力な聞き取り情報が存在した場合は、可能な限りに検討したことを表記した。
- ・ 2017年のレッドリスト策定後、市内各地の植物の現地調査は不十分な状態にある。特に鈴鹿山脈など深山の植物については、現況確認ができないものが多い。しかしながら、丘陵地帯の里地の植物の生息状況の変化は把握されており、断片的ながら市内で

新たな種の分布や産地の情報が得られて、リスト改訂の意義がある。各種の報告や情報に基づき、有識者（植物の策定担当者）の意見を聞いたうえで、2022年版のレッドリストを作成した。

- ・ カテゴリー定義：「絶滅種」は過去に記録があるが長期にわたり確認されない種、あるいは生育場所が明らかに消失したと考えられる種。「絶滅危惧種」は、生育地が極めて限定され（1～数カ所）、存続が困難になりつつある種。および過去に確実な記録、情報があるが、現在は未確認の種（残存する可能性があると判断）。「絶滅危機増大種」は、生育地が限定され、減少傾向が顕著な種。「要注目種」は、減少傾向と考えられる種、情報不足の種、それほど減少していないが良好な環境指標となる種。「地域種」は、甲賀市に特徴的に生育し、群落、群生する種を判断基準として選定した。

◇ 甲賀市レッドリスト 2022 植物 掲載種数の推移

- ・ 各カテゴリー掲載種数（甲賀市レッドリスト 2017 までと比較）は以下表のとおり

表. 甲賀市レッドリスト 2022 植物 掲載種数

＼	2022	2017	2012	2007	備考
絶滅種	4	0	0	0	
絶滅危惧種	39	39	36	35	
絶滅危機増大種	47	47	45	37	
要注目種	87	72	59	43	
地域種	7	6	7	14	
(合計種数)	184	164	147	129	

- ・ 絶滅種としてスブタ、ヤナギスブタ、ユウスゲ、オキナグサを指定し、絶滅危惧種としてイワヒバ、セツブンソウ、カザグルマ、ツルフジバカマ、ガガブタ、ハンカイソウ、オオヒキヨモギ、アギナシ、ミノコバイモ、クマガイソウ、トキソウ、ササバギンランなど、絶滅危機増大種としてヤチスギラン、サンショウモ、コウホネ、ノタスキモ、スズサイコ、マツムシソウ、ノハナショウブ、ホシクサ、カセンソウなど、要注目種としてクモノスシダ、イシモチソウ、タコノアシ、ウメバチソウ、イヌショウマ、コガンピ、キキョウ、ササユリ、ヒナザサなど、地域種としてコウヤマキ、スズカカンアオイ、ハルリンドウ、キビシロタンポポなどを選定した。

◇ 甲賀市レッドリスト 2017 植物からの主な変更とその理由

- ・ 絶滅種 4 種（前回 0 種）では、過去に確実な記録がありながら、長く確認されないスブタ、ヤナギスブタ、オキナグサが、過去に存在した数少ない生育地の環境が完全に失われたユウスゲが選定された。すべて絶滅危惧種から移動した。
- ・ 絶滅危惧種 39 種（前回 39 種）では 34 種が変わらず、5 種が他のカテゴリーへ移動

し、5種が新たに移動してきた。絶滅種となった上述4種が移動したほか、コバノヒルムシロはホソバノミズヒキモの誤同定の可能性が高まり削除しようとしたが、過去の文献記録や甲賀市との境界付近での近年の情報があることから、要注目種に移した。新たな指定種として、マツラン、ササバギンラン、エンシュウムヨウランの標本、文献記録が確認されたため、新たにリスト外から3種を追加した。サイコクヒメコウホネ、トモエソウはより厳しい判断をして、絶滅危機増大種から移動させた。

- ・ 絶滅危機増大種47種（前回47種）では、44種が変わらず、3種が他へ移り、3種が新たに入った。上述した絶滅危惧種に移動した2種と、イヌタヌキモ1種が要注目種へ移った。追加したのは、新たに現地調査や標本によって確認されたアイナエ、ヒメタヌキモ、ノタヌキモの3種である。
- ・ 要注目種87種（前回72種）では、71種が変わらず、1種が削除され、16種が追加された。リスト外から新たに追加された種はマツモ、クロモ、エビモ、ウマノズクサ、サヤマスゲ、ヤナギイノコヅチ、カラタチバナ、ニリンソウ、イチリンソウ、イヌショウマ、ヒキオコシ、アキギリ、ヒメナミキ、オオマムシグサの14種であり、コバノヒルムシロが絶滅危惧種から、イヌタヌキモ種が絶滅危機増大種から追加された。削除された1種はサクラバハンノキで、古い文献記録以外に証拠がなかった。
- ・ 地域種7種では（前回6種）では、前回の6種は変わらない。新たにリストアップしたのは、近畿地方では甲賀市・伊賀市の水田の畔などに、かなり普遍的に分布することが近年に判明したキビシロタンポポである。

◇ 甲賀市レッドリスト2022 植物 今後の保全対策および記録上の留意点

- ・ 絶滅危惧種の植物は、限られた環境にのみ生育でき、現存の生育地が失われてしまうと、絶滅の可能性がある。園芸的な採集圧の強い植物も多い。生育環境の維持を図り、開発、採取などの人為的な環境変化を起こさないように努める必要がある。
- ・ 先述のとおり、里山の草地の草本性植物の衰退が急激に進行している。特に甲賀市では、水田から斜面の雑木林へと続く法面草地（裾刈草地）にキキョウやオミナエシ、ササユリ、ワレモコウ、ホタルブクロ、リンドウ、ハルリンドウ等の多様な草本植物が生育する草地が広域に存在した。しかし、各地で管理放棄による植生遷移（樹林化、ネザサやクズが占有する群落へ変化）、除草剤使用による衰退（スギナなど除草剤に耐性が高い種や裸地化した後に種子が素早く侵入する外来種の群落に変化）、道路・圃場整備やため池改修に伴う掘削による消失、管理方法の変化による消失（草刈頻度や時期の変化）などの原因により、草本性植物群落の多様性が低下し続けている。
- ・ 鈴鹿山脈ではシカの爆発的な個体数増加が起きて以来、草本や低木の植物群落が著しく単調な場所が増加している。低木はシキミ、クサギなど、草本はシダ類、マツカゼソウなどが異様に目立つ谷も少なくない。土山町の溪谷沿いでは、2000年代当初まで観察できた、多様な草本植物相が観察できなくなって久しい。シカに食害されない急

峻な斜面や、自動車の通行が多い道路沿いの斜面などに、以前に豊富にみられた草本植物の少数が残存している状態にある。一部の草本植物は積極的に保護対策を行わないと絶滅の可能性がある。

- ・ 水草では、ノタヌキモ、ヒメタヌキモなどの発見もあったが、市内のため池では周囲の樹林の成長によって、被陰が増えたり、富栄養化が進むなどしたり、水草類が衰退しつつある池が多い。また、アメリカザリガニの分布拡大が続いており、新たな侵入地では、水田内や溝、湿地内の水たまりに生育する水草類が顕著に衰退している。少なくとも、水域の生態系に大きな影響を与えるオオクチバス、ミシシippiaカミミガメ、アメリカザリガニの人の手による移動は必ず防ぐ必要がある。
- ・ ムサシアブミが信楽町に分布するが、野生か栽培逸出か判定できず、レッドリストに未掲載とした。今後、遺伝的な調査等により明らかになることが期待される。また、ヒメユリ（京都府で1957年を最後に記録なく、奈良県で1か所のみ現存）を土山町で約50年前に撮影したとの聞き取りを得たが、確認できる術がない。
- ・ 今後も調査者の協力を得て、市内の植物相や植生の現況把握を期待したい。特に、地形の険しい山間部へは、近年の豪雨等で林道が荒廃したことや、現在の調査者の体力・余力の問題から、調査が不十分である。現況確認が必要な多くの希少な植物の記録が知られており、課題である。

なお、以下に「滋賀県レッドデータブック 2020年版」に甲賀市の分布が記載されているが、今回の「甲賀市レッドリスト 2022」で掲載していない植物種について記した。これらは、「滋賀県レッドデータブック 2020年版」（滋賀県生きもの総合調査委員会, 2021）内の各種の記述において、甲賀市（水口町、土山町、甲賀町、甲南町、信楽町）が分布域・記録地としてあげられている。本来は各種について未掲載の理由を記述するのが適切であるが、対応できていない。未掲載の理由として、まず、「甲賀市レッドリスト 2022」策定の過程において、コケシノブ、コガマ、メガルカヤ、マツカサススキなどは市内に一定の産地数が認められる種と確認したこと、カキツバタ、コムラサキ、フジバカマ、シランなど市内の現状では栽培種が逸出した可能性が高いと判断した種があったためである。また、その他の大半の種は現地確認ができず、標本や根拠文献などの検討材料が得られなかったり、入手した情報の分析にまで至らなかったりしたために、今回は「甲賀市レッドリスト 2022」に含めなかった。今後の課題として、参考情報として列挙する。

一方で、「滋賀県レッドデータブック 2020年版」に甲賀市に分布の記載がない種について、今回の「甲賀市レッドリスト 2022」では多くの種を標本の存在や記録地の確認を伴って記録している。甲賀市の特徴ある植物相について独自の調査結果を公表するとともに、滋賀県の希少植物の保全に役立つデータとなることを期待したい。

～「滋賀県レッドデータブック 2020 年版」に甲賀市の分布が記載されているが、今回の「甲賀市レッドリスト 2022」で掲載しなかった種のリスト～

- 絶滅危惧種：ミズニラ（土山町）、ツリシュスラン（土山町）、ケゴンアカバナ（土山町）、チョウジソウ（信楽町）、ヤマホオズキ（信楽町）、アキノハハコグサ（土山町）、オオダイトウヒレン（土山町）、キクアザミ（土山町）、カワラボウフウ（信楽町）
- 絶滅危機増大種：オオクボシダ（信楽町）、マルミスブタ（甲賀町）、ムギラン（信楽町）、シズイ（甲賀町）、コウボウ（甲賀町）、キンレイカ（土山町）
- 希少種：オオアカウキクサ（信楽町）、シラン（甲賀町）、アオフタバラン（土山町）、ヒメスゲ（土山町）、コアゼテンツキ（水口町、土山町）、エゾノサヤヌカグサ（水口町）、ツルネコノメソウ（土山町）、タチモ（甲南町）、ミヤコミズ（信楽町）、アサダ（土山町）、カラスシキミ（土山町）、ナガバノウナギツカミ（土山町）、マネキグサ（土山町）、オオナンバンギセル（土山町）、オケラ（土山町）、ノニガナ（水口町、土山町）、オカオグルマ（水口町、土山町、甲賀町、甲南町、信楽町）
- 要注目種：ヨウラクラン（信楽町）、ムカゴトンボ（信楽町）、ヒメアブラススキ（水口町）、ヒゲシバ（甲南町、信楽町）、アワモリショウマ（アワモリソウ）（土山町）、トダイアカバナ（土山町）、ネバリタデ（甲賀町）、ヤマハコベ（土山町）、マルバノイチヤクソウ（土山町、信楽町）、トラノオジソ（信楽町）、タカサゴソウ（水口町）、ハバヤマボクチ（信楽町）
- 分布上重要種：ナメラダイモンジソウ（信楽町）、ヨコグラノキ（土山町）、ヒメウワバミソウ（信楽町）、オオケタネツケバナ（水口町）、ミヤマナミキ（信楽町）、ミヤマウメモドキ（信楽町）、キオン（土山町）
- その他重要種：アカハナワラビ（甲賀町、信楽町）、コケシノブ（信楽町）、イワイタチシダ（土山町）、カタイノデ（信楽町、土山町）、クリハラン（信楽町）、ホッスモ（甲南町）、ナツエビネ（甲賀町、土山町）、カキツバタ（水口町）、ヤマラッキョウ（甲賀町）、ミクリ（水口町）、コガマ（水口町、土山町、信楽町）、イトハナビテンツキ（甲賀町、信楽町）、サトヤマハリスゲ（信楽町）、ヒメアオガヤツリ（水口町）、ヒメホタルイ（甲南町、甲賀町）、タイワンヤマイ（水口町）、マツカサススキ（水口町、甲賀町、甲南町、信楽町）、ヒメコヌカグサ（水口町、土山町、甲賀町、甲南町、信楽町）、ウシクサ（甲賀町、甲南町、信楽町）、メガルカヤ（水口町）、カラマツソウ（土山町、信楽町）、ナガバタチツボスミレ（信楽町）、ヒメミソハギ（水口町）、コイケマ（甲賀町）、コバノカモメヅル（水口町、土山町）、シソクサ（水口町、甲賀町、甲南町、信楽町）、コムラサキ（信楽町）、オギノツメ（信楽町）、ヒメシオン（水口町、甲賀町）、フジバカマ（水口町）

【参考文献】

環境省（2020）環境省レッドリスト 2020 <

<http://www.env.go.jp/content/900515981.pdf> >（2020年3月公表、2022年10月閲覧）。

北村四郎（1968）滋賀県植物誌. 362pp., 保育社, 大阪.

甲賀市みなくち子どもの森自然館（2007）甲賀市レッドデータブック- 守ろう!!甲賀の自然と生き物. 80pp., 甲賀市, 甲賀.

甲賀市みなくち子どもの森自然館（2013）甲賀市レッドリスト 2012.

<<http://www.city.koka.lg.jp/item/10943.htm>>（2018年1月閲覧）。

甲賀市みなくち子どもの森自然館（2018）甲賀市レッドリスト 2017.

<<http://www.city.koka.lg.jp/item/11775.htm>>（2022年9月閲覧）。

前田雅子（2015）琵琶湖博物館フィールドレポーター2015年度第1回調査「タンポポ調査」結果報告. <http://www.biwahaku.jp/uploads/2015_1st_report.pdf>（2022年11月閲覧）。

邑田 仁・大野順一・小林禧樹・東馬哲雄（2018）日本産テンナンショウ属図鑑. 366pp., 北隆館, 東京.

村田 源（2004）レッドデータブック近畿研究会（編），近畿地方植物誌. 257pp., 大阪自然史センター, 大阪.

滋賀県自然環境保全課（2019）「滋賀県で大切にすべき植物群落」<

<http://www.pref.shiga.lg.jp/file/attachment/5132393.pdf>>（2022年11月閲覧）。

滋賀県生きもの総合調査委員会（2021）滋賀県で大切にすべき野生生物-滋賀県レッドデータブック 2020. 675 pp., 滋賀県自然環境保全課, 大津.

滋賀県立琵琶湖博物館（2004）中井大介・布谷知夫・村瀬忠義（責任編集），琵琶湖博物館資料目録第10号，植物標本3 村瀬忠義 植物標本目録（単子葉・裸子・シダ植物）。303pp., 滋賀県立琵琶湖博物館, 草津.

滋賀県立琵琶湖博物館（2005a）若狭喜弘・布谷知夫・村瀬忠義（責任編集），琵琶湖博物館資料目録第11号，植物標本4 村瀬忠義 植物標本目録 合弁花類. 332pp., 滋賀県立琵琶湖博物館, 草津.

滋賀県立琵琶湖博物館（2005b）若狭喜弘・布谷知夫・村瀬忠義（責任編集），琵琶湖博物館資料目録第12号，植物標本5 村瀬忠義 植物標本目録 離弁花類. 461pp., 滋賀県立琵琶湖博物館, 草津.

滋賀県甲賀県事務所田園振興課・内外エンジニアリング株式会社（2010）大原貯水池地区自然環境調査，滋賀県甲賀県事務所, 甲賀.

滋賀県甲賀土木事務所・八千代エンジニアリング株式会社（2010）平成20年度 第R1-3号 国道307号道路改築環境調査業務報告書（動植物抜粋），滋賀県甲賀土木事

務所, 甲賀.

滋賀植物同好会・大原貯水池土地改良区 (2010) 平成 21 年度農業用水源地域保全対策事業
大原貯水池水源地域 植物調査報告. 57pp., 滋賀植物同好会, 野洲.

末次健司・福永裕一・西川博章・村長昭義・森小夜子 (2017) エンシェウムヨウラン (ラ
ン科) を滋賀県に記録する. Bunrui, 17 (1): 53-58.

横山明子・西村淳子 (2010) みなくち子どもの森の維管束植物. みなくち子どもの森自然
館(編), みなくち子どもの森年報告第 5 号(平成 17~20 年度), pp. 28-37., 甲賀市,
甲賀.

米倉浩司 (2012) 邑田仁(監修), 日本維管束植物目録. 196pp., 北隆館, 東京.

【植物 担当者: 氏名 (所属等)】(敬称略、あいうえお順)

東 正也 (甲賀市在住)

佐治 達三 (滋賀県植物研究会)

島田 実 (甲賀市在住)

谷 悦男 (甲賀市在住)

西村 淳子 (元 みなくち子どもの森自然館)

横山 明子 (元 みなくち子どもの森自然館)